

岳人あびこ 山行グレード判定基準

- 目的：(1) リーダー差異が起こりにくいように明確化を図る。
 (2) 会員の参加申込の判断基準。
 (3) リーダーから参加者への要求技量。

概要：「体力度」(1～5)、「技術度」(A～E)を各5段階に分類し、それぞれの基準を表示(下表)する。
 歩行(登山)に関する体力度と技術度(危険度を含む)とし、登山口までの距離・時間は考慮しない。
 1日当たりを基準として、山小屋泊まりは、日帰りと同等とする。
 1日で歩いた方が過酷なのに、小屋泊り2日に分けた為にグレードが上がると言った矛盾をなくす。

表示：数字、アルファベットの順で表示する。

”+”や”-”は計画では使用せず、実施結果外的要因(天候、積雪量、トレース)やルート変更により差が生じた場合に使う。(道迷い、故障、事故の影響による場合はルート要因ではなく人的要因なので含まない)

施行：平成15年7月の山行より 平成23年11月に一部の表現を修正。

	体力度基準	ランクアップ	1日当たりの歩行時間 累積標高差	旧表示・ガイドブック表示	ルート例
1	整備された登山道(登り下りの少ない)の歩行 ・自然遊歩道、観光登山道、街道 ・日帰り、宿泊りのハイキング	*野営、避難小屋は1up *積雪期、残雪期は1up	4時間未満 累積標高差600m未満	A ファミリー向け	筑波山 燧ヶ岳長英新道
2	整備された登山道(急登、登り下りの多い)の歩行 ・日帰り、小屋泊りの軽登山	*積雪期・残雪期に野営または避難小屋泊りとする場合は、2up	4時間以上 累積標高差600m以上	A、B 初級、一般向け	大菩薩嶺から小金沢連嶺 早池峰山縦走
3	一般登山道の歩行 ・小屋泊り縦走(装備重量にもよる) ・時間の短い沢の遡行、岩の登攀及び藪道歩行	(3の場合は、4または5)	6時間以上 累積標高差1000m以上	B、B+ 一般、中級向け	谷川岳西黒尾根 八ヶ岳主脈小屋泊り縦走
4	難路(健脚向け)の登山道を歩行 ・登山道以外(未整備・不明瞭な道、ガレ場等)の長時間 ・半日程度沢の遡行、岩の登攀及び藪道歩行 ・膝上ラッセルが数時間続く山行 ・登りの短い(リフト等の使用含む)スキー登山		9時間以上 累積標高差1500m以上	B+、C 中級、上級、健脚向け	網張からの岩手山 積雪期の雲取山
5	難路(経験者向け)の登山道を歩行 ・登山道以外(未整備・不明瞭な道、ガレ場等)の長時間歩行 ・男性18kg、女性15kg以上を背負っての縦走 ・終日沢の遡行、岩の登攀及び藪道歩行、道無き山への登頂 ・膝上ラッセルが半日以上続く山行、登り1日以上スキー登山			C+、D 経験者向けまたはルート無し	積雪期の安達太良山 残雪期の飯豊連峰縦走 厳冬期の立山

	技術度基準	必須事項	旧表示	ルート例
A	指導標完備	読図(方位)	A	筑波山、大山
B	指導標不十分 ・斜面、ガレ場、岩場、鎖、梯子の安定した歩行 ・軽アイゼンの使用及びツボ足歩行	読図(距離)	A、A+、B	磐梯山(八方台を除く) 日光男体山
C	未整備コース、補助なしでの急斜面の登り下り 岩・沢・雪・藪の初級 ・ワカン、ラッセル歩行、テント設営及び野営生活	三点確保 読図 (現在地)	B、B+	上州武尊岳縦走 積雪時の日光高山
D	迷いやすい地形、岩・沢・雪の中級 ・ピッケル、アイゼンの使用、雪中歩行及び判断	懸垂下降 読図(地形)	B+、C	日和田山の岩 大雲取谷の遡行
E	岩・沢・雪の上級 ・視覚制限時の歩行、安全確認	制動及び確保の動作	C+、D	表妙義縦走 残雪期の朝日連峰縦走